

「てんたかく」におけるカスミカメムシ類の防除法

富山農総セ・農業研究所・病理昆虫課

背景

水田内の斑点米カメムシ類の動向は、近年、カスミカメムシ類のアカヒゲホソミドリカスミカメ（アカヒゲ）に加え、アカスジカスミカメ（アカスジ）の発生量が多くなってきており、よりの確な防除対策の実施が必要な状況にある。

そこで、早生品種「てんたかく」の斑点米発生リスクを低減するため、2種のカスミカメムシ類に効果的な防除法を明らかにする。

成果 カスミカメムシ類の効果的な薬剤防除法

① スタークルとキラップは残効が長く、多発生でも防除効果が高い。

【カスミカメムシ類 多発生】

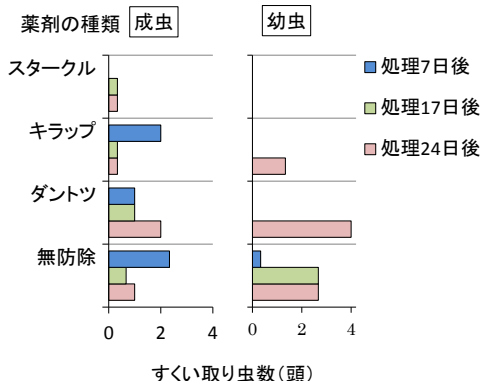


図1 薬剤の種類別の防除効果(2013~2014)

② イネ科雑草の管理が適切であれば、2回の基本防除で斑点米減少。

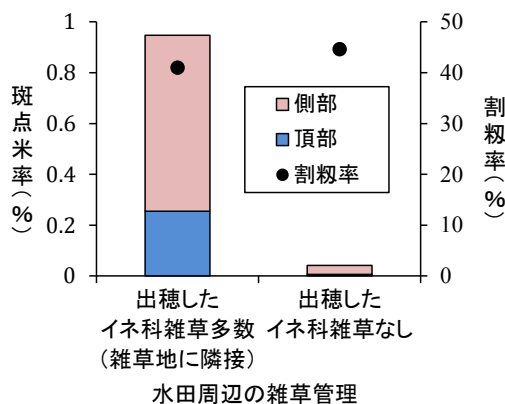


図2 水田周辺の雑草管理と防除効果(2015)
※ スタークルやキラップで防除

③ 微粒剤F体系は、粒剤体系より防除効果が高い。

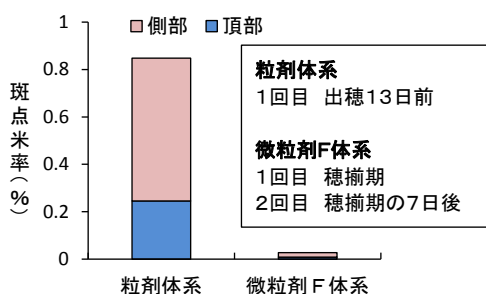


図3 粒剤体系と微粒剤F体系の防除効果(2015)
※ スタークルやキラップで防除

④ カスミカメムシ類および割籾の発生推移と薬剤防除適期

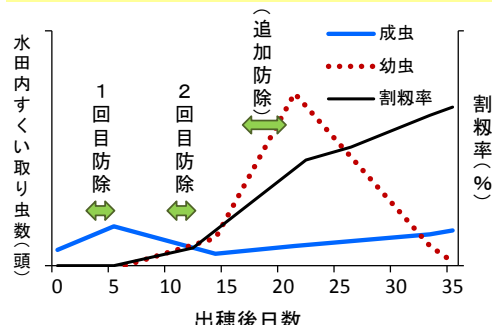


図4 割籾多発生時の無防除田のカスミカメムシ類の発生推移と薬剤防除適期(2014~2015)
※ 追加防除は必要な場合のみ

まとめ

割籾の発生が多い年は、斑点米発生リスクが著しく高まる。

〔一の手〕 雑草管理や適切な薬剤防除など、基本の防除対策の徹底を！

〔二の手〕 追加防除の要否は、発生予報等を参考にし、必要な場合は確実に実施する。

～追加防除の要否の確認方法～

割籾が生じ、幼虫が増加する時期である出穂17~20日後(2回目防除の7日後頃)にすくい取り調査を行い、カメムシ類を確認した場合は、直ちに追加防除を！



アカヒゲ幼虫 アカスジ幼虫 割籾
図5 カスミカメムシ類の幼虫と割籾(2015)